



共につくり、 共に食べる場

望まない孤独・孤立の
予防を目指して



写真：TanoBa G.K

TanoBa合同会社 代表社員 宮本義隆
第9回 孤独・孤立対策の在り方に関する有識者会議
2026年10月13日

活動の出発点



私たち自身も 当事者

自分に必要な
関係と居場所を、
共に育てる



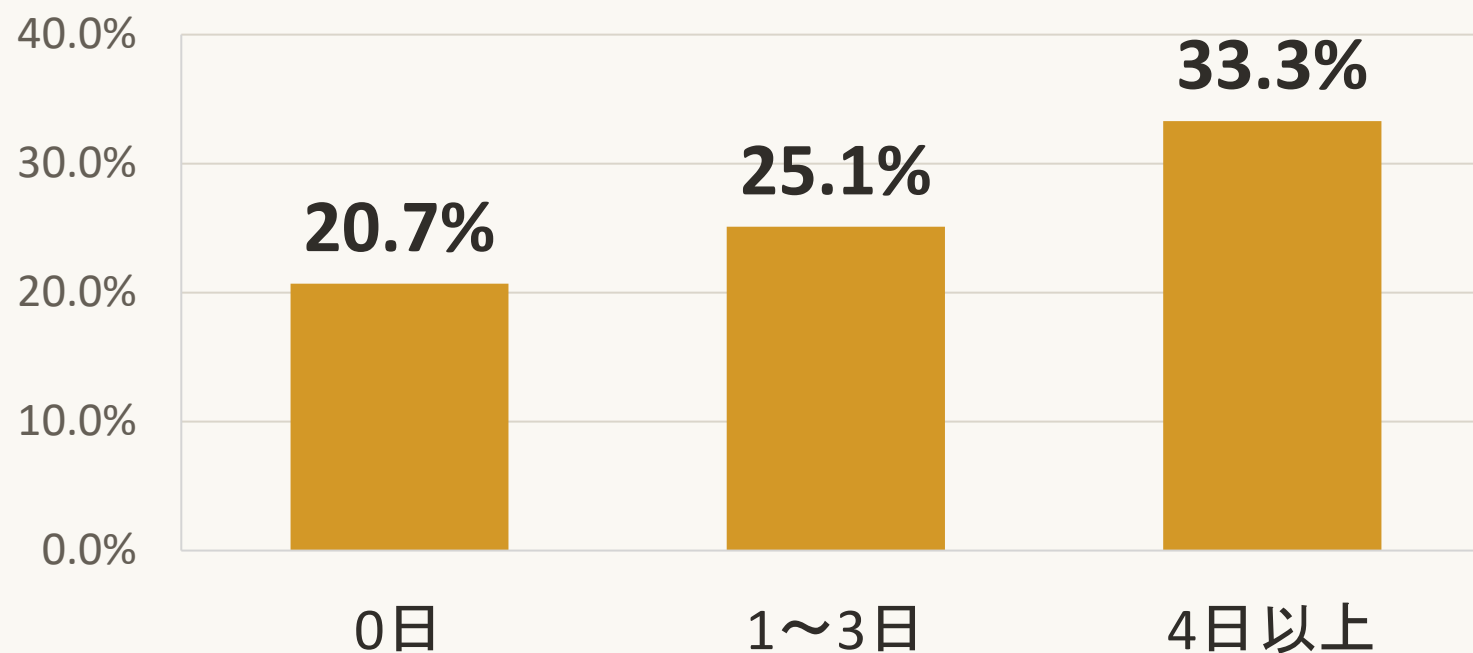
写真：TanoBa G.K



共食とウェルビーイング

夕食の共食日数と、生活評価には関連がある

現在と将来の生活を高く評価する人の割合



過去7日間、知っている人との共食日数

タノバ食堂は野沢・葉山で月1回を基本に開催

味の素グループ／Gallup、2022年調査・2023年報告書、本文p.34 図14
関連を示す調査であり、タノバ食堂の効果測定ではない。



写真：TanoBa G.K

主体性と自由価格制



写真：TanoBa G.K

経験や知識を持ち寄る
一緒に料理や場をつくる
同じ食卓を囲む

「共有」
「共創」
「共食」

関わり方も、
支払額も、
自分で選ぶ

共に場を支える
関係を目指す

食材を通じた企業との連携



食材の背景も、 会話のきっかけに

株式会社 坂ノ 途中の余剰野菜を、
野沢で活用

写真はタノバ食堂で使う食材の一例

写真：TanoBa G.K

継続する関わりを育てる課題



継続参加は、 まだ少ない

38回開催・延べ944人

楽しさを入口に、
場の意味と関わる機会を伝える

2026年10月4日まで。野沢33回・葉山5回。
延べ人数は料理人・運営を含む。
継続参加の少なさは運営上の認識。



写真：TanoBa G.K

担い手が続けられる小さな経済



自由価格制を維持し、収益から対価を支払いたい

売上	1,353,126円
原価・費用	996,984円
剰余金	356,142円

活動の意味と
経済的な対価を両立する

継続・展開できる
条件を考え続ける

両拠点累計、2026年10月4日まで。人件費を計上しているのは葉山のみ。
原価＝食材・飲料。費用＝計上した人件費・消耗品・会場費。
無償提供食材は費用計上なし。

食堂の実践と、今後の可能性

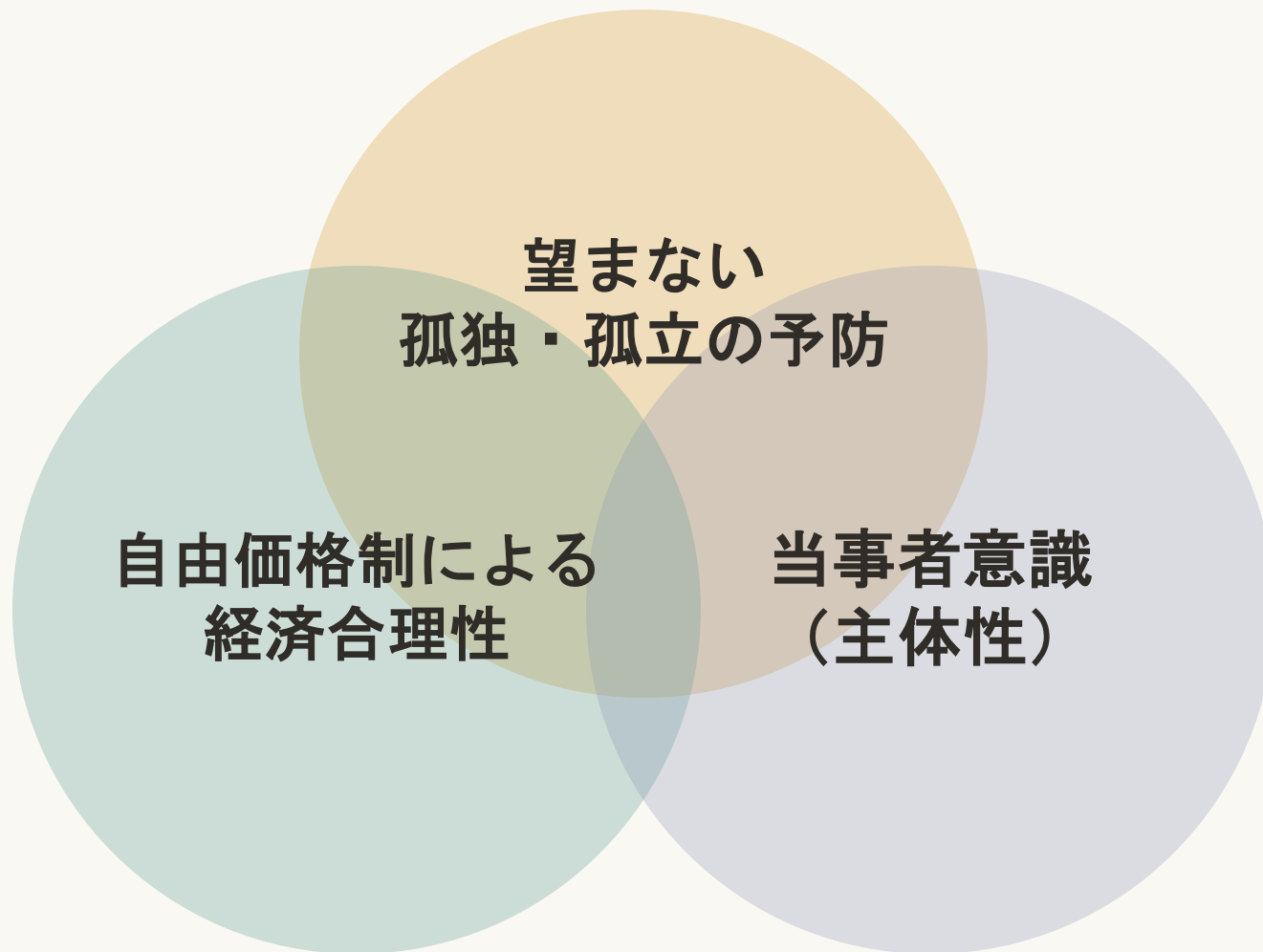


現在の実践

食堂を続け、
知見を深める

今後の可能性

経験・知識・学びを
共につくる他の場へ



3つが互いに支え合う場を育てたい